

令和7年度 とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園番号	
園名	阪本こども園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

食 「食育を通してところが動く体験をしよう」

<テーマの設定理由>

園の食育活動では「食育5つの観点」に基づき、クッキング・農業体験・魚の解体見学など通して「不思議」「やってみよう」「楽しい」を体験できる環境づくりを行っている。栄養士や環境アドバイザーと共に子どもたちの興味関心を深め、経験をもとに探究心を広げていけるようテーマを設定した。

2. 活動スケジュール

- 5月 ①「フルーチェ作り」
- 6月 ②「代掻き・田植え」
- 7月 ③「マス(魚)」④「五穀豊穡(和太鼓演奏鑑賞)」
- 9月 ⑤「きのこ」
- 10月 ⑥「稲刈り・脱穀・試食・しめ飾り」
- 11月 ⑦「地産地消」
- 2月 ⑧「鰯(解体ショー見学、参加)」

3. 探究活動の実践

<活動の内容> ①フルーチェ作り

今日のねらいは…

- ・料理の楽しさを体験
- ・自ら料理したものを食す喜び
- ・牛乳(カルシウム)とフルーチェ(ペクチン)が固まる様子を体験
- ・たくさん話そう

準備物

フルーチェの素、牛乳、ボール、スプーン
ホワイトボード、ペープサート、



藤田(給食さん):

「フルーチェ食べたことある？」

子どもたち:

「あるある～」 「イチゴともも」

「たべたことな～い」

フルーチェの素をボールに入れると…

「いいにおい！」 「イチゴジャム？」

「あまい かんじい～」

「キレイないろだね」

「かきごおりの シロップみたい」

「あ、(ボールに)かおが うつつてる！」

「ほそいかお」

牛乳とフルーチェの素をボールに投入！

かき混ぜる前にボールの中の様子を子どもたちが話し始めました……

(3歳児)

「ハム みたい」 「ぐにゃあ～ってしてる」

「はやく まぜたいよ」

「なんかさ においがさつきとちがうとおもう」

(4歳児)

「うすピンク きれい！」 「カラフル～！」

「シマシマもようだね」 「かわいい～」

(5歳児)

「いちごみるくだ！」 「うすピンク きれい」 「プリンができそう」

「ほとんど ぎゅうにゅうのにおいになっちゃった」

「しろみだけの めだまやき」 「ジャムみたいになった」



表現がどれもユニークです！また、学年が上がるにつれ、例え方も複雑になってきました。

スプーンで混ぜてみよう

そっと混ぜる子、カシャカシャと混ぜる音を楽しむ子、においを嗅ぐ子、今にも食べてしまいそうな子……



「5かいずつ かきまぜるんだよ！」

フルーチェの素と牛乳が混ぜっていく様子を
確認しながら、慎重に回しています。

「まだ ぎゅうにゅういろ だなー」

「きれいな ピンクになってきたよ！」



「なんか かたくなってきたぞー」

かき回し辛くなってくると、隣の友だちが
そっと両手でボールを抑えてくれました。

こうして協力しながら、友だちとの関係性を
築いていくのですね。



みんなでボールをもって
左右に振ってみました。

「プルプルだけど かたいね」

「プリンみたいなかんじ」

「ふわふわ みたいだけど ぷるぷるしてる」

どうして かたまっただのかなあ…

ボールに入れた時は、フルーチェの素も牛乳も「水」のようにサラサラしていたのに、
2つを混ぜたら固まった！ どうしてかな！？



フルーチェの成分(ペクチン)と
牛乳に含まれる成分(カルシウム)がくっつく固まります……と
聞いただけでは「う～ん？」の子どもたち。

そこで、ペクチンさんとカルシウムさんが登場して
くっつく様子を再現しました。



仲良くくっついて固まります



「カルシウムは げんきなほねを つくるんだよ」

「ぎゅうにゅう だいすき」

「ペクチン かわいい♡」

「もっといっぱい食べたいから ぎゅうにゅうをたくさんいれて ふやしたい」
……ということで、牛乳の量を倍にしてチャレンジ！

「どうなるとおもう？」 「プリンみたいになるかも！」

さあ、どうなるのか 子どもたちは興味深々！



「あれ～？ さっきみたいに プルプルしないなあ……」
「しろがおおくなって さらさらしてる」
「いちごぎゅうにゅうだね」(5歳)

「プルプルが なくなってきちゃった。」(4歳)

固まらない様子を目の当たりにして、
「ぎゅうにゅうが おおすぎは おいしくなさそう……」

だから、

「適量を守ると美味しいプルプルフルーツェができるんだね。給食で食べようね」と締めくくろうとしたとき…
質問をしてくれた子がいました。

「あのさ、えっと、パクチン(フルーツェの素)がおおかったらどうなるの？」
「!!!」

不意な質問でしたが、これこそ子どもの探究心の芽生えだと思います。

こどもが「なんで？ どうして？ 星人」になっているときにはできる限り時間を使って一緒に考えていきたい！

「みんなは、どうなると思いますか？」と聞いてみると

「ものすごくぶるっぶるっになる」「カチカチかもしれない」「カルシウムがいなくなる」と
子どもたちは自分の言葉で考えを発言してくれました。



残念なことに、フルーツェの素はなくなってしまったので、実験することはできませんでしたが、先程のパクチンとカルシウムが登場して「いい質問です！」と褒めてくれました。
カルシウムが少ない→パクチンに囲まれる→固くなる
と教えてくれたのですが、それを聞いた年長クラスの子が……

カルシウムいっぱい グニャグニャダンス

パクチンいっぱい カチコチダンス



なんと！
身体で
表現を始め
ました。



保育室を覗いてみると、「フルーチェ屋さんごっこ」をする子どもたちの姿が…



4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

フルーチェの素をボールに入れた瞬間に…「いいにおい」「いちごだね」
そこへ牛乳が入ると…「わあぴんくになった」「きれい」「ハムのいろだ」
混ぜ始めると…「スプーンがかしゃかしゃしてる」「だんだんプルプルしてきたぞ」
完成間近になると…「あまいにおい!」「はやくたべたいな」
いただきます…「おいしいっ!」

子どもたちは、五感をフルに使い、心に響いたようでした。

言葉が湯水のように湧いて出てきて、年長クラスでは、「牛乳が多いとどうなるの?」「フルーチェの素が多いとどうなるの?」という疑問が出たり、その様子を「プルプル・カチカチ」と身体で表現したりと食育からダンスに発展するという予想外な姿や、子どもたち同士の話合いが多く見られました。年少クラスは、さっそくままごと遊びに「フルーチェ屋さん」も加わり、「よく まぜまぜするんだよ～」と言葉を交わしていました。

保護者からは家庭でも手伝いをしたり、フルーチェを作りたいとせがまれた等の感想を聞くことができたほか、クッキングを通して子どもたちの好奇心の枝が多方向に伸びていくことがわかりました。

令和7年度 とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園番号	
園名	阪本こども園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

食「食育を通してこころが動く体験をしよう」

<テーマの設定理由>

園の食育活動では「食育5つの観点」に基づき、クッキング・農業体験・魚の解体見学など通して「不思議」「やってみたい」「楽しい」を体験できる環境づくりを行っている。栄養士や環境アドバイザーと共に子どもたちの興味関心を深め、経験をもとに探究心を広げていけるようテーマを設定した。

2. 活動

- 5月 ①「フルーチェ作り」
- 6月 ②「代掻き・田植え」
- 7月 ③「マス(魚)」④「五穀豊穰(和太鼓演奏鑑賞)」
- 9月 ⑤「きのこ」
- 10月 ⑥「稲刈り・脱穀・試食・しめ飾り」
- 11月 ⑦「地産地消」
- 2月 ⑧「鰯(解体ショー見学、参加)」

3, 探究活動の実践

<活動の内容> ②代掻き・田植え



今日のねらいは…

- ・泥や苗の感触、においや音を感じて新たな発見をする
- ・田植えから収穫までの過程を体験し食べ物への感謝の気持ちを育む

準備物

タフブネ田んぼ(昨年度からの継続)、たらい
模造紙(黒・白)、稲、スコップ

あしが
ぬけない！！

足を抜こうと
もがけばもがくほど
抜けずに焦ってしまいます…
しかし、
足の指の間から
にゆるにゆるっと
泥が入り込んでくる
感覚が楽しくなってきました。



つめたい！ ぬるぬるする～
きもちわるーい



もじゃもじゃ？してるなあ
すべる すべるっ！



ヤゴ ヤゴ ヤゴいたー！
2ひきいるよー



みて！ てぶくろ みたいでしょ

泥の中から「ヤゴ」を発見して大喜びの子どもたち！

「なにトンボになるのかなあ」と興味津々。クラスで飼育することになりました！

おととと！
あしがまえにすすまない
おもーい



くつした はいてる
あっ！ てぶくろも

田んぼ そんなに深かった？

泥に触れていると楽しくなって、
自然と身体が
動いてしまいます！

どんどん プルプルに
なってきたぞ！

泥が水を大量に含んで、
重たくなってきました。
足だけでなく、手も使って
田んぼづくりが進みました。



みず みたい！
あしのかたちが できた
いろが うすいなあ



えのぐ みたいに いろが
つかないなあ…

どろが まざって いろが ぐろに なってきた

泥の足をそのまま洗ったらもったいない…ということで、
模造紙にみんなの足型をとりました。指の形までしっかりと
ついてます！「田植え記念」に乾燥させ、教室に飾りました。

足の裏で泥をつぶしながら歩くのは、バランスも大切。
「ふう～尻もちつきそうだったよ」

「あれっ！くろいかみのうえは、あしあとが ひかってみえる！」



泥を使って、色々な遊びに発展していきます

ここにハートかいて！！
ネコちゃんにして！

こうする(こすりあわせる)と
あれ？なくなった！

かわいたら、さらさらに なってきたなあ
いろが ちがうね
はいいろ みたい！



なんかさ、しわしわがたくさんみえるよ！
つめのなかが まっくらだ！

つちのなかに さすの むずかしい
おかあさんといっしょに できた！！



たくさん うえすぎても だめなんだ！



どこまで さしたらいいの？
もっと ぎゅっとさしていいみたい。

かかしのかおは
みんなでかいたよ！

メガネをかけてるの。
よくみえるようにね！

誰かになってるなあ…



ぴちゃん ずぶずぶ… ぴちゃん ずぶずぶ…
苗を植える音をこんな風に表現していました。

4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもたちは、足全体で泥の感触や重さを感じ、バランスを崩しそうになると足の裏に力を入れ、両手を広げて尻もちをつかないように踏ん張る姿がありました。随分と体幹がしっかりしてきた感じです。

手や足についた泥で顔にペイントを楽しんだり、泥が乾燥して色が変わる様子を友だち同士で見せ合ったりしながら会話が弾んでいました。みんなが大好きな「お米」は自分たちの口に入るまでに、たくさんの工程を経ていることを経験することが来ました。田植えは初めての子がほとんどでしたが、友だち、ボランティア、先生と一緒に汗をかきながら作業をしたことで、達成感や慈しみの気持ちが芽生えたようです。「お米はどれぐらいでできるかな?」「どこからお米の粒が出てくるの?」といった疑問は図鑑で調べたり、家庭に帰って保護者と考えたりする時間も取ることができました。この経験が食べ物を大切に、健康な身体作りに繋がっていけるよう、稲の生長を子どもたちと見守っていきたいと思います。

令和7年度 とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園番号	
園名	阪本こども園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

食 「食育を通してこころが動く体験をしよう」

<テーマの設定理由>

園の食育活動では「食育5つの観点」に基づき、クッキング・農業体験・魚の解体見学などを通して「不思議」「やってみたい」「楽しい」を体験できる環境づくりを行っている。栄養士や環境アドバイザーと共に子どもたちの興味関心を深め、経験をもとに探究心を広げていけるようテーマを設定した。

2. 活動スケジュール

- 5月 ①「フルーチェ作り」
- 6月 ②「代掻き・田植え」
- 7月 ③「マス(魚)」④「五穀豊穰(和太鼓演奏鑑賞)」
- 9月 ⑤「きのこ」
- 10月 ⑥「稲刈り・脱穀・試食・しめ飾り」
- 11月 ⑦「地産地消」
- 2月 ⑧「鰯(解体ショー見学、参加)」

3, 探究活動の実践

<活動の内容> ③マスつかみ

ねらい：命あるものを頂くまでの工程を体験する
準備物：バケツ、クリア水槽(生態観察用)、ハサミ(捌き用)



放流された「ニジマス」は元気いっぱい！
おっかなびっくりの子どもたちの足の間をスルリと
抜けていきます。

男児 A「あのね、いわのかげに いるんだよ」

男児 B「えー いないよー」

男児 A「したの いしとおなじいろだから むずい」

女児 C「しゃがんだら よくみえるよ」

女児 D「おしり つめたいよ〜」

すると聞こえてきたのは…

男児 E「ここ(行き止まり)のところで

まっければくるんじゃない？」

男児 F「じゃ おいかけて(おいこんで)くる！」

追い込み漁ならぬ、追いかっこ漁。

力を合わせて取り組む姿が年長ならではですね。



最初は、どれぐらいの力で魚をつか
んでよいのか分からず
(みんな優しい！)
するりと手から逃げてしまいましたが、少しずつ「感覚」をつかんできま
した。
そこから、つかめる子が増えてきま
した。

「おなかは、しろとぎんいろ
みたないろだよ」
「かおのよこから なんかでてる」



「なかなかつかめないよ」

「なんで、ヌルヌル
してるの？すべて
つかまえにくい！」



子どもたちの「なんで?」「どうして?」が炸裂していました。

「ここは おしり？」
「みんな おなかがうえをむいてる」
動かなくなった魚を指で触ってみると
固くなっていることに気づいたようです。



水を流しながら内臓を取り出す様子
捌いてくださる方が、
「子どもに見せても大丈夫？」と心配して下さいま
したが、好奇心旺盛な子どもたちは、身を乗り出し
て見学していました。



「おなかが ペしゃんこになっちゃった」





小さな心臓を見せてもらいました。
まだ ピクン ピクンと動いてる！
手の中で動かなくなっていく心臓を
じっと見つめていました…

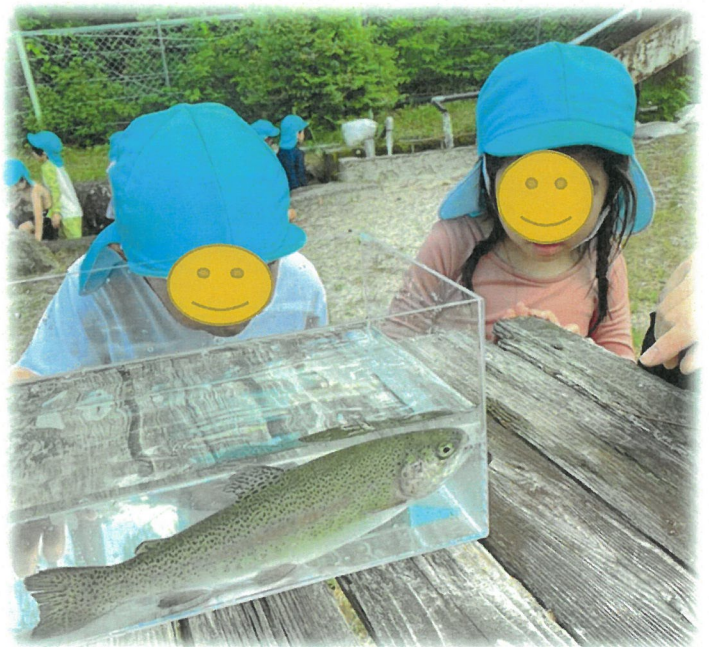
透明な水槽を持参して、前面、側面と観察
しています。思い思いの言葉が飛び交います！



水槽に入っているにも、尾びれで水を掛けながら
必死に逃げ回り抵抗していました。

動きがゆっくりとなり、
水中でお腹が触れるほどに…
「プニプニしてるー」

「くちをぱくぱくしたら、みずがはいつてくるよ
ね。」
「くろいぶつぶつがたくさん！」
「おなかのまんなかに、あかいすじがある」



みんなで捕まえた魚を並んで食べる…魚が苦手な子も「食べてみよう！」という雰囲気…
「やいたら さかなが まがってる!」「どこからたべるの?」「しょっぱーい」「こげたところおいしい」



「おちる おちる～」

骨を避けて食べていたら魚がバラバラに!
一匹丸ごと食べるのは、初めての子がほとんどでした。

「みてみて! あたまとしっぽもたべちゃった。」

「ぼくのもみて! おいしかった～」

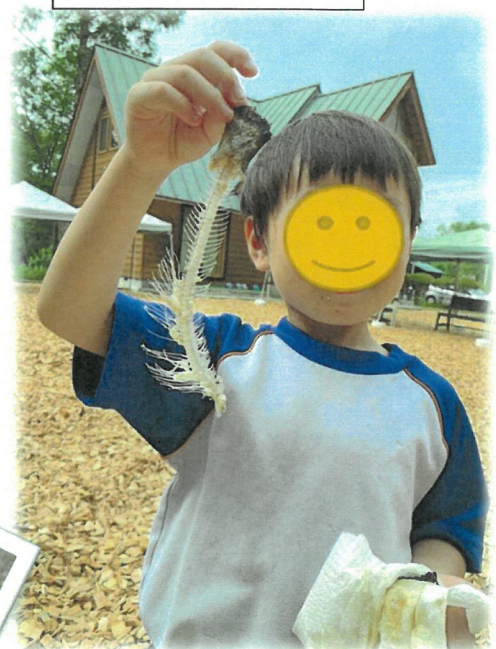
「ほねをかぞえたけど、とちゅうでわからなくなっちゃった!」



きれいに食べてくれて
ありがとう♡



充実の表情!!



4, 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

一泊保育の年長恒例行事の「マスつかみ」

「命あるものを頂く」ということを丁寧に子どもたちに伝えたい！みんなでおいしい魚を食べたい！

そんな思いで、『捕獲→生態観察→捌く様子を見学→食す』という一連の流れを経験することにしました。

魚つかみが始まった瞬間から子どもたちの感情が爆発！歓声が響き渡りました。

捕まえ方も個性が出ていて、じっと佇み一点集中の子、川を上へ下へと移動する子、「捕まえたら触らせて！」とお願いする子…。

生態観察でニジマスの模様を見ながら…

男児 A 「このぶつぶつ なんこあるのかな？」

保育教諭 「数えてみたらどう？」

男児 A 「1, 2, 3, 4, 5…はんたいむいちゃうから わかんなくなっちゃった！」

女児 A 「にじいろみたいだからニジマスなの？」

捌くところを見学しているとき…

手のひらの上で、小さな心臓がピクン ピクンと動く様子を見学したときには、生命の不思議を目の当たりにして「ちいさいね！」「なんでまだうごいてるのかな？」「いたかったかな？」と感じたことを言葉にしていました。

子どもたちとニジマスとの関わりから食するまでの一連の流れを経て、「命あるものを頂く」ことを感じ、「食べ物を大切に作る。粗末にしない」という気持ちが芽生えたように思います。掲載の写真にもあるように、丸々一匹をペロリと平らげる姿はとても頼もしく、自信に満ちていました。この経験が今後の子どもたちの健康な身体作りや、思いやりの心、探究心の広がりにつなげていきたいと思いました。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

番号	
園名	阪本こども園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

食「食育を通してところが動く体験をしよう」

<テーマの設定理由>

園の食育活動では「食育5つの観点」に基づき、クッキング・農業体験・魚の解体見学などを通して「不思議」「やってみたい」「楽しい」を体験できる環境づくりを行っている。栄養士や環境アドバイザーと共に子どもたちの興味関心を深め、経験をもとに探究心を広げていけるようテーマを設定した。

2. 活動スケジュール

- 5月 ① 「フルーチェ作り」
- 6月 ② 「代掻き・田植え」
- 7月 ③ 「マス(魚)」
- ④ 「五穀豊穰(和太鼓演奏鑑賞)」
- 9月 ⑤ 「きのこ」
- 10月 ⑥ 「稲刈り・脱穀・試食・しめ飾り製作」
- 11月 ⑦ 「地産地消」
- 2月 ⑧ 「鰯(解体ショー見学、参加)」

3, 探究活動の実践

<活動の内容> ④五穀豊穰(和太鼓・法螺貝演奏観劇)

ねらい 太鼓と法螺貝演奏や語りを観劇して、感謝の心を感じる
生の音を、身体全体で感じる

準備物 乳児椅子、マット、マイク、音響設備(アンプ等)

太鼓の響きと法螺貝には、邪気を払い(魔除け)や五穀豊穰の恵を呼び込む力があると信じられていたそうです。

「ごこく ほうじょう？」

子どもたちにとって聞きなれない言葉ですが、

「食べ物がたくさんできて、みんなが元気で安全に暮らしていけますように」という願いが込められた言葉だと大きな山伏が優しく教えてくれました。

そして、法螺貝にはどんな関係なのか？

山伏 「貝は海と山どちらにいますか」

園児 「うみ〜！」

山伏 「海は山や森から流れてくる川の水によって養われているんだよ。つまり、海も山も一つに繋がって、そこに住むみんなの命を育てているのです。それを法螺貝も知っているんだね」



乳児クラス(1, 2歳)も山伏の音量に圧倒されながらもしっかりと話を聞くことができました。

法螺貝の音は、どこから出ているのかが分からずにキョロキョロとする姿も見られました。



語りに太鼓や篠笛が加わると、
子どもたちの表情がより真剣な眼差しに…

「たいこのおとって どんな おと？」
「ドンドンドンだよ」
「よこのところは カンカンだよ。
たたいたことがあるから してる！」



太鼓を叩きながら、くるっと回ったり、
腕や足をピンと伸ばしたり…とっても勇ましい姿！
そして、ドンドンドンという音がお腹まで響きます！



幼児クラスはバチを使ってリズムを取ります。
「ドンドンドン ハッ！」「ドーンドン ハッ！」



乳児クラスは手のひらでポンポン叩く！
「叩くと音がする感覚」を楽しんだり、「色々な音色」を感じたりして
いました。

4, 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

山伏の語りと、和太鼓の演奏によって、「私たち人間も自然の一部であり、自然の偉大さや恵みから食べ物となる食の命のおかげで生かされている」ということを教えていただいた。

また、和太鼓演奏では、最初は音の大きさに耳をふさぐ子もいたが、徐々に慣れ、思い思いの言葉で感情の表出をしたり、和太鼓を叩いたときには、「パワーをいれてたたくとすご〜く いいおとがする」と音の変化を楽しみ、良い音を出そうとする様子が見られた。太鼓と法螺貝の響きによって「感謝の心」を感じることができたように思います。

令和7年度 とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園番号	
園名	阪本こども園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

食「食育を通してこころが動く体験をしよう」

<テーマの設定理由>

園の食育活動では「食育5つの観点」に基づき、クッキング・農業体験・魚の解体見学など通して「不思議」「やってみたい」「楽しい」を体験できる環境づくりを行っている。栄養士や環境アドバイザーと共に子どもたちの興味関心を深め、経験をもとに探究心を広げていけるようテーマを設定した。

2. 活動スケジュール

- 5月 ①「フルーチェ作り」
- 6月 ②「代掻き・田植え」
- 7月 ③「マス(魚)」
- ④「五穀豊穰(和太鼓演奏鑑賞)」
- 9月 ⑤「きのこ」
- 10月 ⑥「稲刈り・脱穀・試食・しめ飾り製作」
- 11月 ⑦「地産地消」
- 2月 ⑧「鰯(解体ショー見学、参加)」

3. 探究活動の実践

<活動の内容> ⑤きのこについて知ろう！

ねらい 五感を使って「きのこ」を知ろう

準備物【食材】しいたけ(生・乾燥) エリンギ マイタケ ヒラタケ ブナシメジ タモギタケ
コブリーヌ ヤマブシタケ えのき きくらげ(乾燥)マッシュルーム

【教材・用具】電子黒板 書画カメラ ひかりてーぶる きのこカード 水槽(大・少)
ボール6個 机5台 トレー

「きのこについて知ろう！」

遊戯室を6つの環境に分けての「きのこ」づくり

第1ゾーン『きのこ図鑑』

「ぶなしめじ してるー！」

「えのきだけは たべたことがあるよ」

きのこの種類の多さに驚いたり、
形状の違いを見つけたりして楽しんでいました。



ぶなしめじ、しいたけ、エリンギ、なめこ
えのきだけ、きくらげ、マッシュルーム、まつたけ

第2ゾーン『ひかりのテーブル』

薄くスライスした「マッシュルーム」や「しいたけ」を透かし見てみました！
「ひだ」や「え」の部分が繊維状にに見えています。普段はこんなに薄いきのこを目にしないので
のぞき込んだり、触ってみたりと興味深々な様子でした

まんなかにかさ、ぼちっと
くろいのが みえるよ！な
んで～？

みて！ならべたら かたつむりみたい。



てで こうやってみると
なかの せんが よくみえる

マッシュルームは
ドクロのかたちに にてるなあ

第3ゾーン『顕微鏡でのぞいてみよう』

電子黒板と電子顕微鏡で、「きのこ」をいろいろな角度から観察しています。

きのこの裏側にみんな興味深々！

あかちゃんきのこが いっぱいだよ！



エリンギの
このせんみみたいなところ
ちょっと いろが ちやいろ
ぜんぶ しろだと おもってた！



第4ゾーン 『かんそうきのこ ゾーン』

乾燥きのこは、「食材を保存する」「うまみ成分が増す」と説明がありましたが、子どもたちには少し難しかったようです。それでも水につけて「もどす」作業は楽しむ姿が見られました。

水でもどした「きくらげ」が
水槽いっぱいに溢れています。

「ふにゃふにゃに なったね！ きもちいい！！」



乾燥しいたけの裏側に水を入れて…
「こっちから ふやかしてみるよ！」

においはどうかな？
「ぬらしてみたら、
いっぱい しいたけのにおいが するなあ」



さわってみたらどうかな？

「やわらかいね」「むにゅってしてる」
「ちょっと こわい」「おおきくなってる！」
「ゴシゴシしたら、みずが ちゃいろになってきた。」
「ねーねー みずが しいたけのにおいだよ」

第5ゾーン 『きのこさき』

「みんなが割いたきのこが、給食のスープになります」と伝えられると、香りや感触を楽しみながら子どもたちの手が止まることはありませんでした。



第6ゾーン 『きのこカード』の神経衰弱

きのこの香りが苦手な子もいました。食育会場には入れなかったけれど、先生お手製の「きのこカード」で神経衰弱に夢中になっていました。



4, 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

今回の活動では、「きのこを知ろう」をテーマに、子どもたちが五感を使ってきのこに親しみ、観察し、遊び、味わう体験を重ねました。子どもたちは、薄く切ったきのこを光に透かして見たり、顕微鏡で細部や裏側を観察したりする中で、「もっと見てみたい」「どうなっているのかな？」という探究心を膨らませていきました。また、乾燥したシイタケやきくらげを水で戻す過程では、触ったときの感触の変化や、戻した水の色やにおいの変化に驚きや発見を感じていました。こうした体験は、視覚・触覚・嗅覚といった五感を通して、子どもたちの感性が言葉となって表出し、自分たちの給食に使うきのこを手で割く作業では、「自分たちが準備したものが給食になる」という実感を持ち、食への関心や役割を果たす喜びを味わう姿が見られました。活動の最後には、きのこカードを使った神経衰弱遊びを通して、楽しみながらきのこの名前や特徴を自然と覚える姿も見られました。

一つの食材をきっかけに、「なぜ、どうして?」「おもしろい!」など遊びを通じた学びができたことに保育教諭も教育・保育への広がりを感じました。また、子どもたちが自ら興味を持ち、主体的に関わる姿から、「子どもが主役となる学びの場」を意識的に作っていくことの大切さを改めて感じました。他の食材(野菜、まめ、果物)等でもチャレンジしたいと考えています。

今後も、日常の中にある「学びの種」を見つけ、子どもたちの「やってみたい」「知りたい」という気持ちを大切にしながら、教育・保育を展開していきたいと思えます。

令和7年度 とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園番号	
園名	阪本こども園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

食「食育を通してこころが動く体験をしよう」

<テーマの設定理由>

園の食育活動では「食育5つの観点」に基づき、クッキング・農業体験・魚の解体見学など通して「不思議」「やってみたい」「楽しい」を体験できる環境づくりを行っている。栄養士や環境アドバイザーと共に子どもたちの興味関心を深め、経験をもとに探究心を広げていけるようテーマを設定した。

2. 活動スケジュール

- 5月 ①「フルーチェ作り」
- 6月 ②「代掻き・田植え」
- 7月 ③「マス(魚)」④「五穀豊穰(和太鼓演奏鑑賞)」
- 9月 ⑤「きのこ」
- 10月 ⑥「稲刈り・脱穀・しめ飾り」
- 11月 ⑦「地産地消」
- 2月 ⑧「鰯(解体ショー見学、参加)」

3. 探究活動の実践

<活動の内容> ⑥稲刈り・脱穀・しめ飾り

ねらい

米を育てる→食べる→藁を使うという循環を体験し、自然や文化への感謝の心を育てる

準備物 【食材】脱穀米

【教材・用具】(稲刈り)ハサミ 麻ひも 水筒かけ

(脱穀・試食) 牛乳パック⑩ すり鉢⑥ テニスボール⑥ ブルーシート
ざる⑥ ボール⑥ 炊飯器① 透明プラカップ ②

(しめ飾り) 藁 たらい ブルーシート はさみ 水

【稲刈り 10/10(金)】

前日の雨で田んぼに雨水がたくさん！
本来なら鎌を使って刈り取りますが、
子どもたちは「園芸用ハサミ」で頑張りました。
いつもとは使い勝手の違うはさみに
一苦労でしたが何とか全員で刈り取り作業を
行うことができました。



「ぎゅってむすぶの むずかしいなあ〜」



根元を麻ひもで縛り逆さにして乾燥させます。
お手伝いのお母さんや友だちとちからを合わせて
行いました！



【脱穀 10/24(金)】

脱穀を3つの手順で行いました！



- 1, くちを広げた「牛乳パック」の端に
稲穂をひっかけて、抑えながら引き抜く



牛乳パックの中に少しずつ籾殻がついたままのお米が
たまっていくとのぞき込んだり、振って音を鳴らしたり
して楽しむ姿も…。
一粒も無駄にしないように、みんなとても慎重に作業し
ています。

- 2, もみ殻が付いたままの米をすり鉢に入れて、テニスボールでぐりぐりする



もみ殻と玄米に分かれていきます
テニスボールが子どもたちの手によく
フィットしていました。
根気のいる作業でしたが、みんな夢中になって行
いました。

- 3, そ~っとふいて、もみ殻をとばす

「くしゃみしたら ぜんぶとんでくよー」



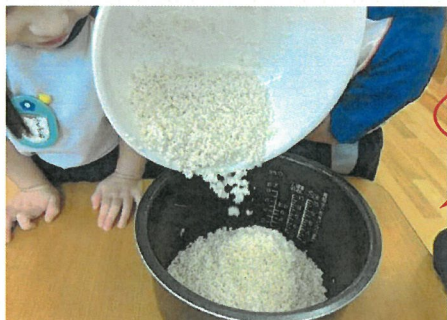
【試食 10/30(木)】



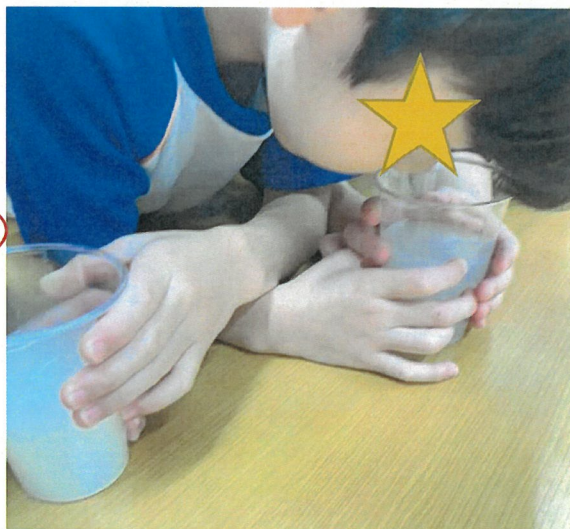
とぎ汁の色の違いを発見！
「だんだん うすくなるね」
「3ばんめは カルピスみたい！」



お米一粒もこぼさないぞ！と気合が入っています。
「きょうりょくして うまくなりました！」



おいしくなーれ！



とぎ汁のにおいはどうか？
「なんか みずとおこめが まざったにおい」
「こいほうが おこめのにおいが よくなる」

わああ～！！
おいしそう…



「たきたては さいこうだねっ！」

【しめ縄作り 10/30(木)】

友だちと力を合わせてねじっていきます。
ねじる方も、持っている方もとても力が必要。

ボランティアのお母さんたちも一緒に息を合わせて
頑張りました！



ねじりながら、編んでいくのに一苦労！
丸くするには、4人がかりでした。

でも、世界でたった一つの「輪飾り」
素敵な水引も飾って、完成！！



みてみて！
おしょうがつに
げんかんに かざりたいな

4, 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

2025年6月から10月末まで稲作体験を中心とした活動を継続的に行いました。代掻きや田植えから始まり、稲の生長を観察し、鳥による食害を目の当たりにしながら自然の営みを学びました。秋には稲刈りと脱穀を体験し、子どもたちは「いっぱいやったのに、少ししかないね」と驚きの声をあげ、米一粒の尊さを実感しました。収穫した米を試食した際には「おいしい!」「あまい!」と感想を伝え合い、食べ物のありがたみを心から感じている様子が見られたことに大きな成長を感じることができました。

さらに、刈り取った藁を使って正月の輪飾りを制作し、「おうちに飾りたい」と誇らしげに話す姿もありました。こうした一連の活動を通じて、子どもたちは友だちと協力し、話し合いながら作業を進める経験を積み、「一緒にやるとできるね」「たのしかったね」と社会性を育む場面が多く見られました。

今回の活動は、食育の観点から食べ物大切さを学ぶだけでなく、自然との関わりや伝統文化への理解を深める貴重な機会となりました。鳥による食害や天候の影響など課題もありましたが、子どもたちが自ら問いを立て、仲間と考え合う姿は大きな成長の証でした。今後は、保護者や地域との連携をさらに広げ、稲作体験で得た学びを日常の食育活動や行事に継続的に活かしていきたいと考えています。

令和7年度 とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園番号	
園名	阪本こども園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

食「食育を通してところが動く体験をしよう」

<テーマの設定理由>

園の食育活動では「食育5つの観点」に基づき、クッキング・農業体験・魚の解体見学など通して「不思議」「やってみたい」「楽しい」を体験できる環境づくりを行っている。栄養士や環境アドバイザーと共に子どもたちの興味関心を深め、経験をもとに探究心を広げていけるようテーマを設定した。

2. 活動スケジュール

- 5月 ①「フルーチェ作り」
- 6月 ②「代掻き・田植え」
- 7月 ③「マス(魚)」
④「五穀豊穰(和太鼓演奏鑑賞)」
- 9月 ⑤「きのこ」
- 10月 ⑥「稲刈り・脱穀・試食・しめ飾り製作」
- 11月 ⑦「地産地消」
- 2月 ⑧「鰯(解体ショー見学、参加)」

3. 探究活動の実践

<活動の内容> ⑥地産地消

ねらい

3歳：「地元」や「近くでとれた食べ物」の感覚を育て、どこから来るかに興味を持つ

4・5歳：「地産地消」の言葉と意味を知る。地域の名前や人とのつながりを感じる。

「地元(近く)の食べ物を食べる良さを考える。

準備物 電子黒板 手作り絵本(PDF)

【3歳児】

食べ物はどのようにできるの？誰が作っているの？
自分たちのまわりに当たり前にある「食物」

最初に「はちさんの あまーい ひみつ」のお話を聞いた後、「はちみつクイズ」に参加しました。



はちみつの「はち」は昆虫のハチ、
はちみつの「みつ」花のみつ
ということに気づいた子どもたち。
自分たちの食べるものがどのようにつ
くられているのか興味深々の様子で
す。

新宿のビルの上でも「はちみつ」が
作られていることに、保育教諭も
驚きでした！

「たかい びるまで とんでくの
すごい たいへんだね！」

子どもたちも思い思いの気持ちが言葉
になって現れます。



園のある中央区で作られている野菜は
ないけれど、江戸川区では「こまつな」が
作られていることが分かりました。

「えんで こまつな つくって
たべたよね!？」

園でもプランター栽培したことを思い出
したようです。



みんなの食べるものが何処からくるのか、だれが作っているのかを考えるきっかけとなりました。
買い物へ行ったときに「どこからきたの？」と聞ける子が増えたらいいなと思います。

【4・5歳児】

「地産地消」の言葉と意味や地域の名前や人とのつながりを感じてみよう

「地元(近く)」の食べ物を食べる良さを考えてみよう

「地産地消とは近くでとれた食べ物を食べること」

しかし、子どもたちの「近い」「遠い」は一人ひとり違います。

「千葉とアメリカ」「車で行けるところ飛行機に乗らないといけなところ」子どもたちから意見が飛び交います。そして近くでとれるもののクイズを行いました。



5歳のつぶやき

「たまねぎは たまねぎ なのに
だいこんは「かめいど」がつくの？」
「いつもは だいこんって いうよ」

「かめいど」に注目するあたりが
年長児らしい！



「ディズニーランドが あるところ！！」

「くるまで いけたから ちかく」

「ちばは うみが あるから あさりだとおもう」

「ちばに しおひがりに いったことある！」

みんなにクイズは少し簡単だったようです……

千葉県のことをよく知っている子どもたち。中央区も負けていられないぞ！と思いました。

給食の野菜を作っている人はどんな人たち？

農家さんの写真を見た子どもたちの反応は…

「このひとの なまえは なんていうの？」 「だれなの？」
「ひろい はたけ！」 「でっかい だいこん」 「てで とるの？」



「銚子市はこのあたりです(○部分)」と栄養士さんが教えてくれると…



「あっ！ チーバくんだ」
「ほんとだ チーバくんの みみのところ」

子どもたちの千葉県への絶大な人気ぶり…
東京都も負けていられないぞ！

こうしてみんなの家のごはんや園の給食は、
いろいろな人の手を通してできている。

「ありがとう」の気持ちをもって食べ物をいただきましょ

う。また、買い物に行ったときに食べ物がどこからきているか見てみよう！

4. 振り返り



<振り返りによって得た先生の気づき>

今回の食育活動では、3歳児は「はちみつができるまで」の話や画像を見ながらクイズを楽しみ、食べ物はどこから来るのかを学びました。「運ぶ距離が短いから環境にやさしい」という点は少し難しかったものの、生産者の顔を写真で見ることで理解が深まりました。また、「スーパーで写真を探してみる」「産地をママに聞いてみる」といった声が子どもたちから自然に上がり、学びが家庭へ広がる様子も見られました。

4・5歳児も画像やクイズを交えながら学びを深め、近隣の千葉県でとれる野菜や貝類、東京・江東区で収穫される大根を知り、身近な地域で食材が生産されていることに驚いていました。農家さんが食材を作る様子を画像から知ること、食べ物がどのように作られ、どのように運ばれてくるのかに関心を持ち、食べ物の尊さを感じる姿が見られました。その結果、「いただきます」「ごちそうさま」の声が以前より大きくなり、感謝の気持ちが育まれていることが分かりました。

保育教諭や栄養士にとっては、環境への配慮といった抽象的な概念は3歳児には難しいものの、写真や映像を用いることで作り手の存在を理解しやすくなること、またクイズや遊びを取り入れることで子どもが主体的に考え、家庭での実践につながることなど、多くの気づきが得られました。さらに、地域の食材を紹介することで子どもたちの驚きや関心が高まり、学びの広がりを感じることができました。

今後、この学びを継続させていくために、園では以下のような取り組みを積み重ねていきたいと考えています。

- **給食やおやつの時間に産地を伝える工夫**
例えば、「今日のにんじんは千葉県から来たよ」と先生が声をかけることで、毎日の食事が自然に学びの場となり、子どもたちの関心を広げていきたい。
- **保護者との連携**
買い物の際に「産地探しゲーム」を提案し、家庭でも食材の背景に目を向けるきっかけを作る。
- **遊びや活動の中での工夫**
「市場ごっこ」「レストランごっこ」などの遊びを通して、簡単な流通の仕組みを体験できるようにする。
- **プランターでの栽培体験**
「自分たちで作って食する」経験を積み、食べ物への関心と感謝をさらに育む。

毎日の食事や遊びの中で少しずつ「食べ物の背景」を伝え、環境への配慮といった難しい部分は年齢に応じて繰り返し深めていくこと、そして子どもの「気づきの声」を拾い次の活動へとつなげることが重要だと感じました。こうした継続的な工夫によって、子どもたちの食に対する理解と感謝の気持ちをさらに育んでいきたいと考えています。

令和7年度 とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園番号	
園名	阪本こども園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

食 「食育を通してこころが動く体験をしよう」

<テーマの設定理由>

園の食育活動では「食育5つの観点」に基づき、クッキング・農業体験・魚の解体見学など通して「不思議」「やってみたい」「楽しい」を体験できる環境づくりを行っている。栄養士や環境アドバイザーと共に子どもたちの興味関心を深め、経験をもとに探究心を広げていけるようテーマを設定した。

2. 活動スケジュール

- 5月 ①「フルーチェ作り」
6月 ②「代掻き・田植え」
7月 ③「マス(魚)」
④「五穀豊穰(和太鼓演奏鑑賞)」
9月 ⑤「きのこ」
10月 ⑥「稲刈り・脱穀・試食・しめ飾り製作」
11月 ⑦「地産地消」
2月 ⑧「鰯(解体ショー見学、参加)」

3. 探究活動の実践

<活動の内容> ⑦鰯(解体ショー見学 参加)

ねらい

準備物 ホワイトボード、長机②、ブルーシート②、マイク②、
(給食業者) まな板、柳刃包丁、出刃包丁、バット③、ふきん(数枚)

2026/2/19

ぶりの解体ショー

一年ぶりの「ぶりぶりくん」との再会！！

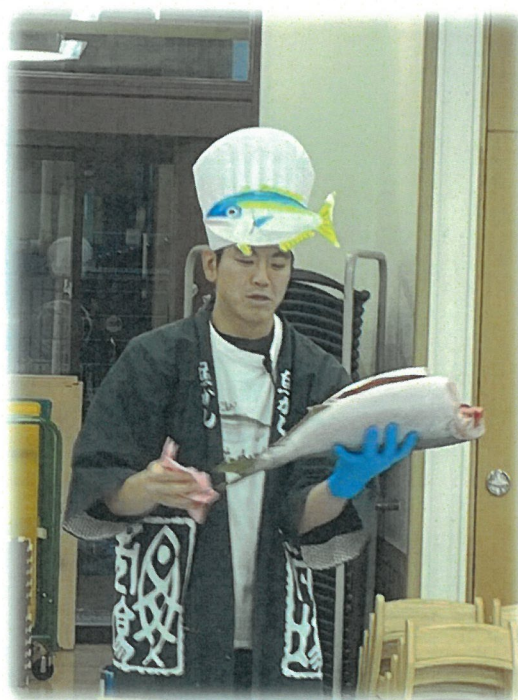
魚を見るなり「おなかすいたー」と子どもたち。



今年は、70cm… ちょっと小ぶり！

見事な包丁さばき！

骨を切る音もしっかり聞こえました。



「かおが こわい！」と泣き出す子もいれば、
「わああ〜」と興味津々な子！

山下さんが「命を頂いてみんなの身体が大きくなっているんだよ」と教えてくれました。





「め！め！めだよ～」

包丁を入れる順番までしっかりと覚えている子もいて驚きました。

大きな魚がだんだんと小さくなっていく様子を見守っていました。

「みんなが いつも食べる
おおきさになってきたね！」



「ぶりに は(歯)ってあるの？」

さかなをたべるからある！
まるのみ するんだよ！

いろいろな意見が出てきます。

正解は…歯はなく、魚を丸のみするよう
に口が大きく開くんだよ！

「わー ベロもある！」



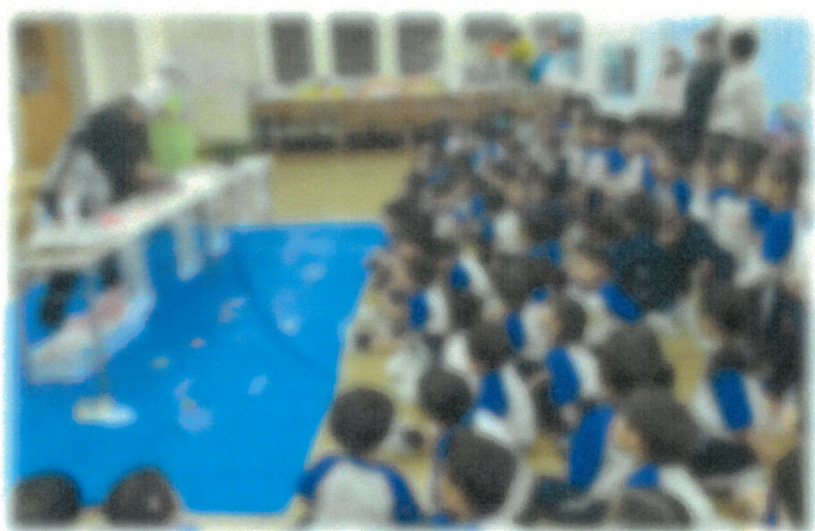
ぶりは「出世魚」名前が変わります

分かりやすく 子どもたちにも参加してもらいました。

もじゃこ→わかし→いなだ→わらさ→ぶり
5回も名前が変わるなんて！

長い「柳刃包丁」が出てきた時には
「わあっ」と歓声が上がりました。

「ながーい！」
「かっこいい」
「ほしいなあ・・・」



きれいに並んだ「切り身」に
目がキラキラの子どもたち。

乳児
「はやくたべたいなあ」
「きれい！」

幼児
「せんせいが たべるのは
おおきくて いいなあ・・・」

切り身を目の前に、「おなかすいた～」の光景です



「おいしそう！」

「しっぽが かわいい」

「ほねは ないね」

骨まで全部使うと聞いて驚いていました。

捨てる場所がないってすごいですね！



「めが きんいろ！」

「あたまが つるんって してる」

小さくなった 鰯にも「愛着」が！



4, 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

命をいただく体験への主体的な参加

5歳児は、一泊保育で経験した「マスつかみ」を思い出しながら、生態観察や捌く様子の見学に強い興味を示していた。生き物の命をいただくことが自分の身体をつくるという実感につながっていると感じた。

道具や調理工程への関心の高まり

家庭ではあまり見ない柳刃包丁や、部位によって使い分けられる道具に注目し、真剣に観察する姿があった。骨に包丁が当たる「ごりごり」という音に耳を澄ませるなど、五感を使って学ぶ姿が印象的だった。

家庭とのつながりが学びを深める

「出世魚」という言葉を知っている園児もあり、家庭で保護者と調べたり話題にしたりしていることがうかがえた。園での体験が家庭の学びと結びつき、理解が広がっていると感じた。

食べることへの意識の変化

給食で提供された「鰯の照り焼き」はほぼ完食で、大きな魚が“切り身”になるまでの流れを見たことで、食材への興味や感謝の気持ちが高まっているようだった。「食」は大切なもの、自分の身体をつくるものという意識が育っていると感じた。

今後も「命」と「食」をつなぐ体験を継続するように活動を進めていく